

平成31年度 学校自己評価システムシート (県立寄居城北高等学校)

目指す学校像	一人ひとりが 個性輝く 元気な学校 ～ 総合学科の特色を生かした教育を展開し、知・徳・体のバランスのとれた生徒を育成する ～
--------	---

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 系列の特性を生かした教育を実践し、確かな学力の育成と資格の取得に取り組む。 2 基本的生活習慣の確立を図り、部活動や学校行事などの特別活動を通して規律ある態度を身につけ、心身ともに健全な生徒の育成に努める。 3 インターンシップ等の体験活動を通して、進路意識の醸成を図り、生徒の適性や希望に応じた進路実現に努める。 4 積極的な情報発信を通して、保護者・地域の方に感動と共感を与えることのできるシステムを構築し、地元を中心に意欲ある生徒の確保に繋げる。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	学校関係者	6名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	11名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 (1 月 1 7 日 現 在)		実 施 日 令 和 2 年 2 月 7 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	<p>【現状】授業中の態度やマナーは身に付いており、落ち着いた教育環境の中で授業が展開され、学習意欲の高い生徒もいる。</p> <p>【課題】基礎学力と学習意欲に大きな差があり、実態に応じた個の指導が必要である。授業を軸に基礎学力の定着と伸長には、更なる工夫が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着と伸長を図るために、授業改善を行い、個の支援を充実する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学びプロジェクトの研究開発員等を中心に協調学習を取り入れた授業改善を授業力向上に繋げる。 ②全校で朝学習を実践し、基礎学力の定着に取り組む。 ③商業、英語、国語を中心に多方面の資格取得に取り組ませる。 ④新教育課程の検討と生徒の実態に合ったプランの再検討を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ①授業を相互参観する教員が年間を通じて延べ80名を超えたか。 ②成績不振者数が前年比5%減、授業が理解できたとのアンケート回答者数は5%増と向上したか。 ③各種の資格試験の受験者数は前年比5%増加したか。 ④各教科がアクティブラーニングの視点に立った授業改善に向け、年間を通じて検討、研究を行ったか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①相互参観は目標を達成し、授業改善に繋がった。 ②成績不振者は6.1%増、授業理解度は64.8%で昨年とほぼ同様の値であった。 ③受験者数は6%減だが、合格率3%増の向上があった。 ④研究員等を中心に年間を通して協調学習の視点で授業改善に取り組んだ。 	B	<ol style="list-style-type: none"> ①新学習指導要領の実施を視野に今後も授業力向上に向けた指導方法の改善に取り組む ②学習意欲の向上と基礎学力の定着に向けた更なる取組みを工夫する。 ③学習意欲の高い生徒への伸長を図る取組みを工夫する。 ④保護者への更なる働きかけで学習状況の理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングの視点に立った授業改善には、基礎学力定着が必須であり生徒の実態に合わせて推進して欲しい。 ・タブレット等のICT機器を活用した授業改善の展開に期待している。 ・学習意欲の高い生徒が、進路先で困らないように学力伸長の為の様々な取組みを実践してもらいたい。
2	<p>【現状】生徒の多くは基本的生活習慣が確立され、部活動や学校行事に熱心に取組んでいる。また、礼儀正しく素直な生徒が多い。</p> <p>【課題】新たな交通安全指導体制の確立と部活動基本方針の周知徹底を図り、生徒指導力の一層の向上を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との相互理解、協力を得ながら安心安全な高校生活を実現する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒指導部を中心に県の委嘱事業を活用した交通安全教育(講話、スクエアドストリート)を実施する。 ②部活動顧問団で、部活動に係る活動方針を踏まえた指導を展開する。 ③地域の関係機関と連携し、ボランティア活動に積極的に参加させる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①新たな生徒指導体制への理解が年度末アンケートで90%を超えたか。 ②部活動への加入率が昨年に比べ増加したか。 ③ボランティア活動への参加生徒数が昨年度比5%増加したか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①新たな生徒指導体制への理解度は目標値に足りないものの、交通安全教育委嘱事業は無事に終了した。 ②部活動加入率は昨年比12%増であった。 ③ボランティアに参加した生徒数は昨年比66%増と大幅に増加した。 	B	<ol style="list-style-type: none"> ①今後も保護者の理解と協力を得て生徒指導を行う。 ②部活動の活性化は、生徒の生活実態に合わせた活動や指導方法の工夫が必要である。 ③今後もJRC部や生徒会等を中心に、社会貢献を通じた生徒の社会性の伸長や意識の醸成に取組みたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアへの参加生徒数の大幅な増加はもっと評価して良い。社会性の醸成に向け継続してもらいたい。 ・生徒の生活実態に合わせた部活動の指導を推進して欲しい。 ・入学後の満足度が高いことは評価する。今後も教育活動の改善を望む。
3	<p>【現状】系統的な進路指導により学年が上がるほど進路への意識は向上する傾向にある。昨年度も進学・就職率は100%であった。</p> <p>【課題】インターンシップの有効活用を図るとともに、生徒の進路ニーズに応じた系統的な指導を強化する必要がある。保護者への一層の働きかけで、進路指導への理解と協力を得たい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路意識の醸成を早期に図り、目標に向かって計画的な高校生活を過ごさせることで、進路を実現させる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①全学年で「進路の手引き」等の進路教材や人材を適時適切に活用することで系統的な指導を行う。 ②1年次のインターンシップを多面的に活用する。また、学年と連携して産社、総学とLHRを活用した段階的なキャリア教育に取り組む。 ③小論文、面接指導、進路補習の徹底で、きめ細かく生徒の進路ニーズに応える。 ④進路指導部と渉外部で協力し、PTA進路見学会を開催する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①計画的な進路教材の提供と活用により、3年生の進路決定率100%を実現できたか。 ②インターンシップが計画的に展開され受入企業、参加生徒の満足度が80%を超えているか。 ③PTA、後援会、同窓会、外部指導者など幅広い系統的な支援で進路指導が実施できたか。 ④進路見学会は開催され、参加者の満足度が80%以上得られたか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①進路情報の適時適切な提供と活用で進路決定率は99%であった。 ②1年次生のインターンシップは計画通り実施でき、生徒の満足度も93%であった。 ③夏季休業中の合同面接練習会を実施して系統的な進路指導を実施できた。 ④卒業生や担当者から現状を見聞できたことで90%を超える満足度があった。 	A	<ol style="list-style-type: none"> ①系統的で継続的な進路指導の展開と、学校、生徒、保護者の三者が共通理解を密にとり、今後も深化させていく。 ②インターンシップを継続可能で有効な取組みとするために校内組織の見直しを行う必要がある。 ③幅広い支援協力体制は今後も継続性をもって実行する。 ④様々な行事を通して進路指導活動の周知を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・都内への就職者は多くないだろうが、オリンピックの関係で就職活動日程に影響が及ぶかもしれないので留意して欲しい。 ・県北地区ではあるが、インターンシップの実施に向けても、同様に留意して欲しい。 ・インターンシップは今後も継続して欲しい取組みである。
4	<p>【現状】近隣地域の大幅な中学卒業生数の減少を受けて、様々な広報・生徒募集活動を展開し、成果を上げている。</p> <p>【課題】HP等を通じて最新の教育情報を発信するとともに中学生や保護者のニーズに応えた取組みで入試倍率をあげていくことが期待されている。また、高大連携を通して本校の特色化に繋げたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育活動が中学生や保護者、地域社会に広く理解されている。 	<ol style="list-style-type: none"> ①部活動や生徒会、有志の生徒を中心に地域のイベント等に積極的に参加させる。 ②中学校訪問や学校説明会等で、本校の教育活動を積極的にPRする。 ③HP、城北ニュースを活用して、常に最新の教育情報を発信する。 ④近隣小中学校との合同イベントや大学との連携事業を展開する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①地域のイベントに参加する生徒数が昨年より増えたか。 ②受検生が募集定員を上回ったか。 ③公開授業を実施し、生徒の様子を観てもらえたか。 ③HPの更新を週1回以上行い、常に最新の教育情報を発信できたか。 ④大学等の外部機関との連携事業を各学期ごとに実施できたか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①寄居町等からの協力要請に昨年度とほぼ同数の参加人数であった。 ②1月10日現在の競争率は1.02倍で定員超である。 ③HP等を活用した最新情報発信は計画通り実施でき学校理解に繋がられた。 ④小中学校との合同イベントや他機関との授業連携も計画通りに実施できた。 	A	<ol style="list-style-type: none"> ①今後も地域活動に協力、貢献できる校内体制の維持発展に取組みたい。 ②丁寧な学校説明会の実施で中学生、保護者に本校を理解してもらい定員を上回る志願者数確保に繋げたい。 ③本校の様々な教育活動をHP等を通じて本校への理解に繋げていく。 ④異校種との連携事業の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事等への参加協力には地域として感謝している。授業の一環としても参加協力いただき助かっている。 ・志願者が定員を超えたことは、地域の活性化や発展にも繋がること。地域の中学生が減少しているが、生徒募集は今後も継続して欲しい。 ・HPのアクセス数を分析して何が注目されているか募集に繋げてみてはどうか。

